



### 有松まちづくりの会役員会 (1月27日)

有松駅前ロータリーにあるモニュメント「藍流(あいる)」の電飾が故障して久しい。修理のため関係各所に問い合わせた結果「完成当初の状態に戻すことは困難だが、灯りをともす方法を検討中」との回答を得たと報告がありました。令和7年度総会日程について、5月中旬で調整することになりました。



令和七年 干支(松柏苑にて)

### 門松で新春を迎えよう (12月22日) 於:しぼりの宿MADO

天井の絞り柄がステキな”MADO”で、参加者10名程を迎え門松作りが行われた。秋に、西町の東海道沿いを彩っていた”いけばなストリート”と”有松ミチアカリ”が主催。皆さんに生け方を指南後、各自思い思いに取り組んでいた。切ったばかりの青竹の器(高さ50cm)に若松や菊などが生けられ、竹灯りオブジェが組み合わされていた。門松とは年神様を迎えるための目印とか。



### 左義長 (1月14日)

■ 東町では 100年以上続く地域の伝統行事。東町秋葉神社を訪れたのは8時過ぎ。朝の登校時間ということもあり、子どものあいさつの声が響き清々しい気分…近所の方々が次々と古札を手に訪れていた。お手伝いに来る人も。



12/16祇園寺境内

### ■ 有松天満社では

9時、文嶺講の皆さんは古札等を燃やすのに、お出迎えの準備に忙しい。そんな中嬉しい事が。近隣のマックスバリュー5店の店長さんが古札等を持って来て下さった。今年初めての知多新知店店長は「集められた正月飾りを持参。このような形で地域貢献ができれば…」と。他のお店(有松・左京山・鳴子・東海荒尾各店)の皆さんと記念撮影です。



秋葉大社祭が西町や文嶺講の皆さんによって行われた。



祇園寺:12月16日



## 新年に向けて

### ◆ 元旦祭の準備① (12月15日)

9時過ぎ、天満社社殿前で三町総代の皆さん等20名ほどが集まり準備開始。西村総代長・鋤柄副総代長を先頭に参拝、のち幟旗・提灯の取り付け、テント張り、古札納所作り等を町ごとに分担して行っていました。子供連れの参加者もあり、天満社が地域の皆さんに愛されていることが伝わってきました。記者も幟旗の付け替え作業をさせていただきましたが、皆さん慣れた手つきで1時間半程で作業を終えていました。



### ◆ 元旦祭の準備② (12月31日)

31日は社殿の拭き掃除や幕の取り付けに大忙しです。どの位置で幕を絞るのか、皆さん相談しながら進めていました。また、一の鳥居では幟が付けられ、その側を参拝者が時おり通ります。いつもながらの風物詩です。



### 午未(ごよう)会 最後のしめ縄作り (12月1日・鳥居への設置12月31日) 寄稿 日比野 愛さん

先日、午未会さんによるしめ縄作りが執り行われました。本厄の年に鳥居を寄付して以降40年以上にわたり、毎年12月第1日曜日に集まりしめ縄作りをしていらっしゃいました。

今年も12名の方が駆けつけてくださり、立派なしめ縄が完成しました。新しいしめ縄は12月31日に飾り付けを行い三鳥居から地域の方々・訪れるの方々を見守っています。天満社へお詣りの際にご覧いただけますと嬉しいです。

なお、午未会さんによるしめ縄作りは今回で最後とのこと。長年にわたり本当にありがとうございました。

短い期間でありましたが午未会の皆さんと出会い、地域行事の大切さ・季節行事の大切さなどを学び、楽しさや思い出を分けていただきました。心より感謝を申し上げます。



### 特集① 有松天満社 元旦祭 (12月31日～1月3日)

#### ● 迎春カウントダウン 大晦日 23時頃

境内の隅々まで清められた天満社、"いろはの滝"には水が流されていた。集まり始めた参拝者を講員の皆さんがお出迎え。「昨年より人出が少ないな」と文嶺講総代長の西村さん。それでもカウントダウンが始まる10分前には、下の広場近くまで、参道は人でいっぱいになった。

新年と共に参拝者は拝殿で手を合わせ、中には臥牛を筆で撫でている人も。中の広場ではおみくじを求めたり甘酒で体を温めたりしている人も見られた。ライトアップされたおみくじは、未来への輝きを示しているようだ。





## ● 初詣 元旦 9:30頃

好天にも恵まれ多くの参拝者が訪れていた。ご祈禱希望者も次々と。若者が多かった昨年とは異なり子供連れや年配者が多い。

中の広場で目を引くのは巨大文字、奉納されるとのこと。おみくじやお守りを求め長蛇の列ができていた。



### 特集② 有松に“笑い”がやってきた

～ 同行ルポルタージュ～ (1月4日)

「万歳」とは、お正月に家々を訪ね一年の福を呼び込む新春の伝統行事。鎌倉時代から700年続く「尾張万歳」(国の重要無形民俗文化財)を名古屋で継承する今枝社中の皆さん(父子)が、今年も1月4日に有松に来た。

「門付け(かどつけ)」という鼓・三味線・胡弓を奏でながら家庭やお店を廻り、玄関先でおめでたいことを唱えご祝儀をいただく万歳芸。その同行ルポルタージュ。訪ねた家には「千社札」が渡される。

11時過ぎ、寿限無茶屋ににぎやかな音曲を奏でながら、今枝増笑門さんら4人が来訪。増笑門さんは子らの演奏を優しい眼差しで見守っている。音曲の後は「なぞかけ問答」、訪問先ごとに演目は変わる。例えば

"門松"とかけて"お風呂屋の湯加減と解く。その心は？  
暑かったら 埋め(梅)  
ぬるかったら 焚け(竹)  
私は 待っ(松)ている

千社札



尾張万歳が現在の「漫才」のルーツとの説に納得です。

寿限無茶屋を出発して西へ、1号線で折り返して中町交差点までを廻る。留守宅が多く、今回は西町の竹田嘉兵衛商店まで足を延ばした。

有松への来訪は23年目、有松を廻り亡くなられた方や毎年待ってくださる方などが思い浮かぶのでしょうか、同行者の私に話しかける増笑門さんの目には涙が浮かんでいた。当時長男の増吉さんは小学生、後に姉妹が続く。その子らもすでに成人。

温かく迎えてくれた有松の皆さんへの感謝の念と伝統芸能が確かに継承される手ごたえを感じているようだ。13時半頃終了。増吉さんら3人から「待ってくださる方がいる」「父の代わりにやるしかない」「皆とやっていく」の声が聞かれた。

今枝社中の皆さん (右:増笑門さん)



ご祝儀





## クリスマスワークショップ (12月7日・14日) 於:六弦とコットン

季節の行事を大切にしているギャラリー"六弦とコットン"では、"もぐもぐ工房"(編み物作家・作業療法士)さんとコラボして毛糸のサンタさんオーナメント(写真右)やリース作りが行われていた。天然のコットンや有松絞りの括り糸を活用して作られているという。また、温かい雰囲気醸し出されており、作業療法士の方が安心して作業に取り組める環境を作り出していることにも気づかされた。



**予告 2025年2月24日(月祝) "うさひなまつり展" 絞りとうさぎの「編みぐるみ」作品を展示**

## いろどりBASE (12月8日) 於:moss ARIMATSU 主催 いろどりマーケット実行委員会

日常に『いろどり』をと始めた企画。7月に続き2回目。10か所程のブースが並んでいた。季節がらクリスマスやお正月向けの小物販売や製作体験が行われていた。小さい子連れ客など若い世代の方が多く、西町に賑わいがもたらされたのがうれしい。目に留まったのがカラフルな正月飾り。店もキラキラ☆



## kaan to color×yuki-art-healing コラボ展 (12月14日～16日) 於:moss ARIMATSU

アップサイクルをテーマにした展示会。副題に「色にまみれる贅沢な時間」とある。開催のきっかけは夏。立っている3人の企画者の一人が、有松絞りを施した大量の布地(写真右上)によるインスタレーションを制作。展示後、ポシェット(写真右下)として布地を再活用することで廃棄布を減らすことができた。つまり、捨てられるはずの廃棄物にデザインや新たな付加価値を持たせることで新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせるというアップサイクルを実践することができたのだ。アパレル業界では深刻な課題とか。この経験を広く伝えたいと開催された展示会であった。将来的には会社を作り、産後の女性の再就職の一助となることを目指す。モスアリマツという展示会場もまさにアップサイクルされた建物である。



## 催事・行事予定

1月22日～2月9日 日展名古屋展2025 愛知県美術館ギャラリー

2月17日(月) 10:30 おこしもん作り 申申居(旧庄九郎カフェ)  
NPO法人コンソーシアム有松

2月17日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

2月22日～3月23日 有松福よせ雛さんぼ道 有松東海道一帯  
同実行委員会

2月22日(土) 10:00 第5回有松茶会 竹田家茶室「栽松庵」NPO法人コンソーシアム有松

2月23日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

2月24日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。

★有松まちづくりの会 会員募集中★  
有松のまちの魅力を発信するために  
あなたの力が必要です！  
申込は左下のメールアドレスまで。

## 《編集後記》

まちに活気を、賑わいをもたらそうとする試みが、いたるところで始まっています。一つ一つは小さいけれど、やがて大きなうねりと…